

# Economic Activities

## 経済活動

経営方針	P.4
2002年度業績の概要	P.7
国内での活動	P.8
海外での活動	P.10
グループ企業の状況	P.11

## 経済活動

### 経営方針

#### ■ ビジョン・ミッション

2003年、三菱自動車は、下記に示した「ビジョン」「ミッション」を新たに策定し、社会に提示しました。

ビジョン(=われわれの会社の望ましい姿)を目指すため、ミッション(=われわれのあるべき将来への道筋)を掲げて、これを達成することを約束します。

#### VISION

次代を切り拓くコンセプトと走る喜び。  
磨き続けてきた日本のものづくりの精神。  
自然と共存する技術。

その進化とともに、新しいカーライフの扉は、私達が開きます。

#### MISSION

- ◎ 明日を見つめ、お客様によるこんでいただける、ワクワク、ドキドキするクルマ、心のこもったサービスを提案します。
- ◎ 収益性の高い事業構造を作り上げ、世界の重点市場で存在感を確立します。
- ◎ “三菱自動車”を世界で際立つブランドに育てます。
- ◎ 最高のクオリティで、全ての事業活動を行います。
- ◎ 社会の一員としての責任を自覚し、その発展と地球環境の向上に尽くします。



### ■ 三菱ふそうの設立

2003年1月、三菱自動車のトラック・バス事業を分社し、独立した新会社「三菱ふそうトラック・バス株式会社（以下、三菱ふそう）」を設立しました。三菱ふそうの株主構成は、ダイムラークライスラー社（DC）43%、三菱自動車42%、三菱グループ15%です。

これにより、DCとの協業によるスケールメリットを享受するほか、DCのノウハウや技術の導入を促進することが可能となります。三菱ふそうとDCとの間で見込まれる主なシナジー効果は次の通りです。

- ◎品質・コスト・商品力の向上による国内外での優位なマーケットポジションの確立
- ◎グローバル購買の拡大による資材費の大幅低減
- ◎環境技術を含めた先進技術投資と車体・コンポーネントの共同開発及び共有化による開発費の大幅な削減
- ◎パワートレイン共有化によるコスト削減
- ◎グローバル規模における販売ネットワークの相互補完

### ■ ターンアラウンドの進歩

三菱自動車は、DCとの戦略的提携によるシナジー効果を十分に活かしながら、3年計画である「ターンアラウンド計画」を推進中です。ブランド力向上と商品展開の充実、コスト削減、トラック・バス事業の分社などコア事業への選択と集中、業務プロセスの最適化に取り組み、将来への更なる飛躍への準備を進めています。2002年度は計画2年目にあたります。2002年度決算では、目標とする利益額を達成しました（詳細はP.7参照）。

経営の効率化についても、2003年度までに資材費15%、人員14%（約9,500人）、余剰生産能力20%以上を削減するという各目標を前倒しで達成することができました。

国内販売については、お客様サービスの向上、コーポレート・アイデンティティやビジュアル・アイデンティティの統一など、販売体制の再構築に取り組んでいます。また、DCとの協力関係を活用して、カナダ・メキシコ等の新規市場に参入しました。

### ■ ワールドエンジン

三菱自動車、DC、現代自動車の3社による合弁会社グローバル・エンジン・アライアンス（Global Engine Alliance L.L.C）は、米国ミシガン州ダンディにて新エンジンの生産を行います。

同社は4気筒の新ガソリンエンジンの設計、開発、エンジニアリングを共同して行う合弁会社として2002年5月に設立されました。

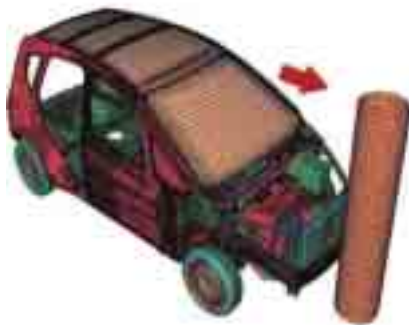
新エンジンは、2004年に現代自動車韓国（アサン）で生産を開始し、三菱自動車では、2004年後半からパワートレイン製作所（旧 京都製作所）で生産を予定しています。さらに、2005年からは、米国工場でも生産の予定です。3社を合わせたエンジンの総生産台数は年間150万台以上となることを見込まれ、世界的にも最も多く使用されるエンジンシリーズとなります。



■ 安全な自動車の開発

年間100万人以上の死傷者をもたらす交通事故は深刻な問題であり、安全な車をお客様に提供することは自動車会社の社会的責務と考えています。

このため三菱自動車は全方位からの衝突に耐える車両構造の基準“RISE”を設定し、設計図面段階からコンピュータ上で数々の衝突シミュレーションを行いながら車両を開発しています。次に試作車段階では、正面衝突、オフセット衝突、側面衝突、後面衝突、ポール衝突など色々な衝突実験を行って、多面的な安全性の確認を行っています。また、事故統計データを活用してこれらの安全対策の効果を確認し、次の開発車にもフィードバックしています。



コンピュータ上での衝突シミュレーション



衝突実験

さらに、交通事故を未然に防ぐため、安全装備や危険回避性能の開発を推めています。後者については、実際の車両を運転できるドライビングシミュレータなどを用いて、運動性能の向上を目指しています。



ドライビングシミュレータ

また、三菱自動車／三菱ふそうでは、将来の安全な車づくりのためASV<sup>\*1</sup>研究車、AHS<sup>\*2</sup>研究車を製作し、新しい安全運転支援システムの研究開発も進めています。

■ 品質管理

ターンアラウンド計画では、品質面での抜本的改革に力を入れています。

まず、DC社の手法を用いた新しい開発プロセス管理システム「クオリティゲート」を取り入れました。これは、商品開発の構想段階から生産・発売までの各段階に複数のチェック・ゲート（関門）を設け、各ゲートで厳しい審査を実施し、品質を含む全ての基準を達成できなければ次のステップに進めないというシステムで、2001年発売の新型車から導入しています。また、発売後の品質改善に向け、市場からの不具合情報の自動登録管理システムを取り入れ、人による判断のバラツキや抜け防止を図ります。さらに、不具合情報のデータベース化によって、対策のスピードアップと質的向上を目指しています。

ハンドシェーブスイッチ<sup>®\*3</sup>の研究

安全で使いやすい車づくりのため、ヒューマンファクターの研究開発にも取り組んでいます。例えば、三菱ふそうは慶應義塾大学と共同で、手の形を画像解析することにより、簡単なジェスチャーだけでオーディオやエアコンなどを操作できるシステムを開発しています。運転中にスイッチを探す必要がないので、わき見運転による危険を未然に防止します。

操作方法の例

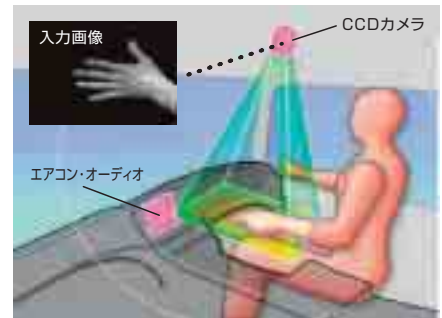
機能切換え プッシュスイッチを操作するイメージ

仮想のスイッチ Push



- 「音量」
- ↓
- 「温度」
- ↓
- 「風量」

作動原理



解説

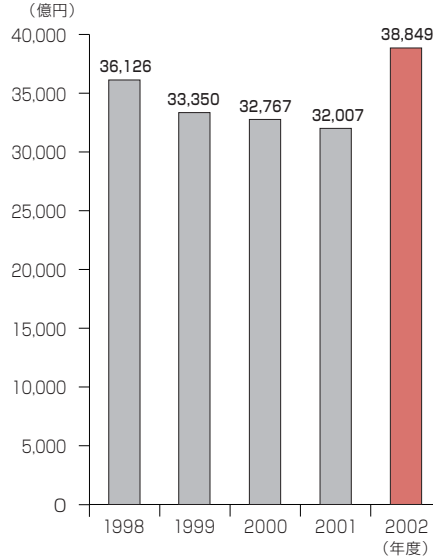
- \*1：ASV (Advanced Safety Vehicle)  
国土交通省が推進する、先進安全自動車の研究プロジェクト。
- \*2：AHS (Advanced cruise-assist Highway Systems)  
ASV同様、国土交通省が推進する、走行支援道路システムの研究プロジェクト。
- \*3：ハンドシェーブスイッチ<sup>®</sup>  
「ハンドシェーブスイッチ」は、三菱ふそうの登録商標です。

## 2002年度業績の概要

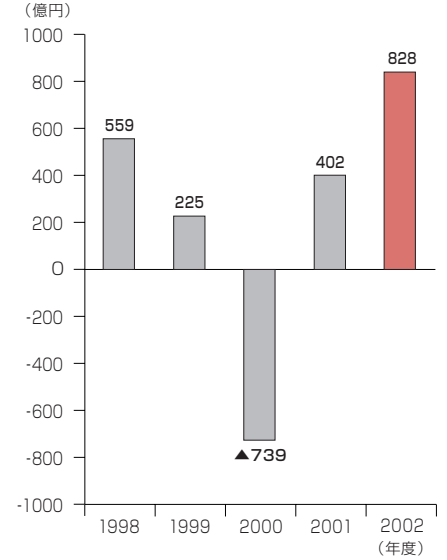
2002年度の連結業績において、売上高は3兆8,849億円となり、前年度より増収になりました。また利益面では、「ターンアラウンド計画」を着実に推進し、利益体質を追求した結果、営業利益は828億円、経常利益は543億円、当期利益は374億円となりました。

なお、2002年度連結決算では、三菱ふそうグループの売上損益は完全連結されています。

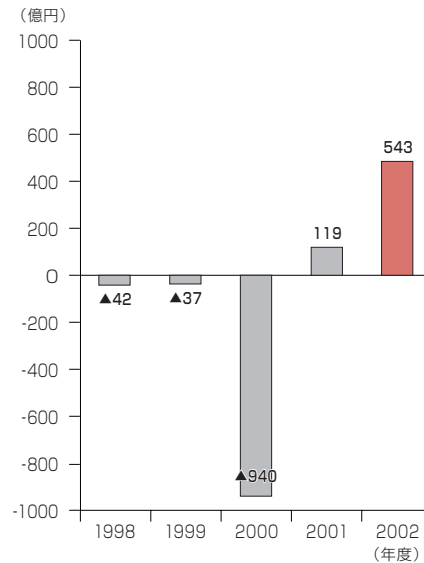
(2002年度決算より、連結財務情報開示の透明性並びに質の向上を図るため、海外連結子会社の会計年度の終了日を12月31日から国内と同じ3月31日に変更しました。その結果、2002年度連結決算では、海外連結子会社については15ヶ月間の財務結果を反映しています。この期間変更による影響は、連結売上高4,334億円増、営業利益100億円減、経常損益131億円減、当期利益65億円減です。)



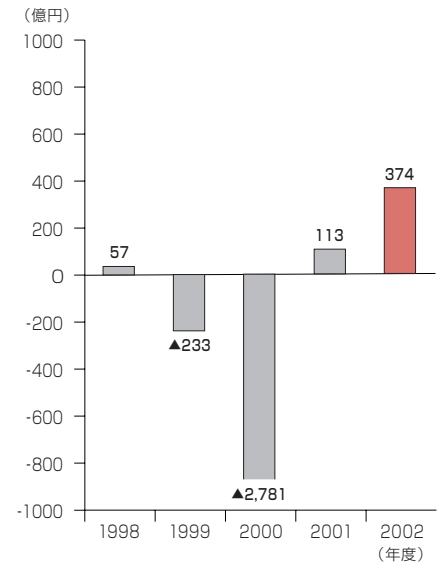
連結売上高



連結営業利益



連結経常利益



連結当期利益

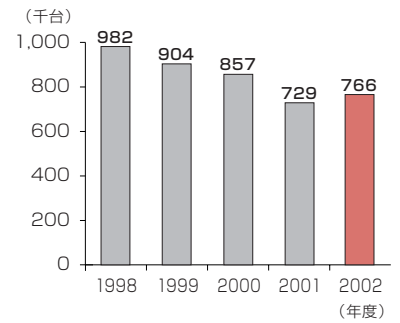
## 国内での活動

### ■ 開発／生産

#### 乗用車部門（三菱自動車）

開発拠点		所在地	
乗用車技術センター	岡崎地区	愛知県岡崎市	⑨
	京都地区	京都府京都市	⑬
	十勝研究所	北海道河東郡音更町	①
	多摩デザインセンター	東京都多摩市	⑦

生産拠点		所在地	
車両生産	名古屋製作所（岡崎工場）	愛知県岡崎市	⑨
	水島製作所	岡山県倉敷市	⑭
	パジェロ製造株式会社	岐阜県加茂郡坂祝町	⑪
エンジン生産	パワーレイン製作所（旧 京都製作所）（京都工場）	京都府京都市	⑬
	（滋賀工場）	滋賀県甲賀郡甲西町	⑫
	（水島工作部）	岡山県倉敷市	⑭
トランスミッション生産	パワーレイン製作所（旧 京都製作所）（京都工場）	京都府京都市	⑬
	（滋賀工場）	滋賀県甲賀郡甲西町	⑫
	（水島工作部）	岡山県倉敷市	⑭
部品生産	名古屋製作所（大江工場）	愛知県名古屋市	⑩

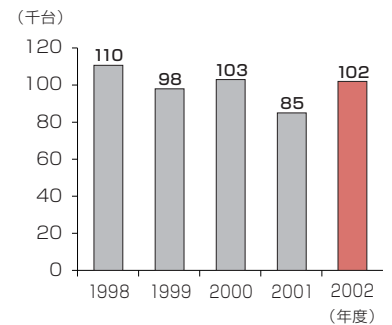


乗用車国内生産台数

#### トラック・バス部門（三菱ふそう）

開発拠点		所在地	
トラック・バス技術センター	川崎地区	神奈川県川崎市	⑤
	喜連川地区	栃木県塩谷郡喜連川町	③

生産拠点		所在地	
車両生産	川崎製作所	神奈川県川崎市	⑤
	中津工場	神奈川県愛甲郡	⑥
	大江バス工場	愛知県名古屋市	⑩
	三菱自動車バス製造株式会社	富山県婦負郡	⑧
エンジン生産	川崎製作所	神奈川県川崎市	⑤
トランスミッション生産	川崎製作所	神奈川県川崎市	⑤
部品生産	中津工場	神奈川県愛甲郡	⑥
	三菱自動車テクノメタル株式会社	福島県二本松市	②



トラック・バス国内生産台数

- ① 十勝研究所
- ② 三菱自動車テクノメタル
- ③ トラック・バス技術センター（喜連川）
- ④ 本社
- ⑤ 川崎製作所  
トラック・バス技術センター（川崎）
- ⑥ 中津工場
- ⑦ 多摩デザインセンター
- ⑧ 三菱自動車バス製造
- ⑨ 岡崎工場  
乗用車技術センター（岡崎）
- ⑩ 大江工場
- ⑪ パジェロ製造
- ⑫ 滋賀工場
- ⑬ 京都工場  
乗用車技術センター（京都）
- ⑭ 水島製作所



■ 販売

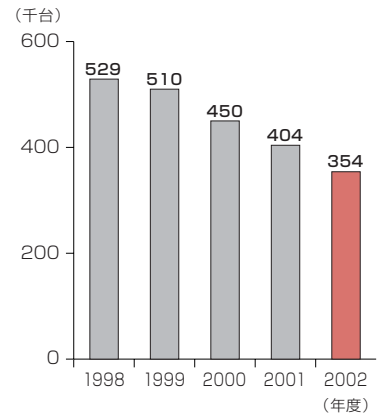
乗用車部門(三菱自動車)

(2003年3月31日現在)

販売チャンネル	販社数	拠点数
三菱モーターズ	207社	1,001拠点

(2003年3月31日現在)

取扱い車種		
登録車	セダン	ダイヤモンド、ギャラン、ランサー、ランサーエボリューション
	SUV・ミニバン	パジェロ、パジェロイオ、コルト、ランサーワゴン、デリカスペースギア、エアトレック、シャリオグランディス、ディオ
軽自動車		eKワゴン、eKスポーツ、トップBJ、ミニカ、タウンボックス、パジェロミニ



乗用車国内販売台数

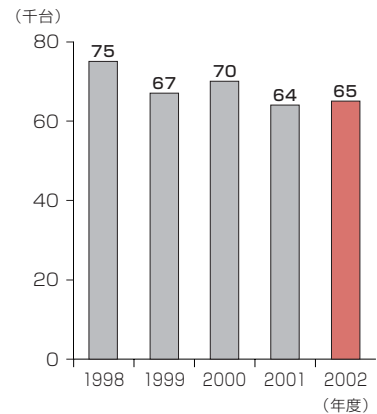
トラック・バス部門(三菱ふそう)

(2003年3月31日現在)

販売チャンネル	販社数	拠点数
ふそう	36社	290拠点

(2003年3月31日現在)

取扱い車種		
トラック	大型	スーパーグレート
	中型	ファイター
	小型	キャンター、キャンターガッツ
バス	大型	ニューエアロスター、エアロバス、エアロクィーン、エアロキング
	中型	エアロミディ
	小型	ローザ、エアロミディ



トラック・バス国内販売台数

2002年度発売の主な新型車



コルト



ランサーカーゴ



キャンター

海外での活動

■ 海外の主要拠点（連結子会社のみ記載）

北米

	拠点名	主な機能	所在地
乗用車	MMNA	事業統括・生産・販売	アメリカ
	MRDA	研究開発	アメリカ
	MMCA	金融	アメリカ
	MMSCAN	販売	カナダ
トラック・バス	MFTA	販売	アメリカ

アジア

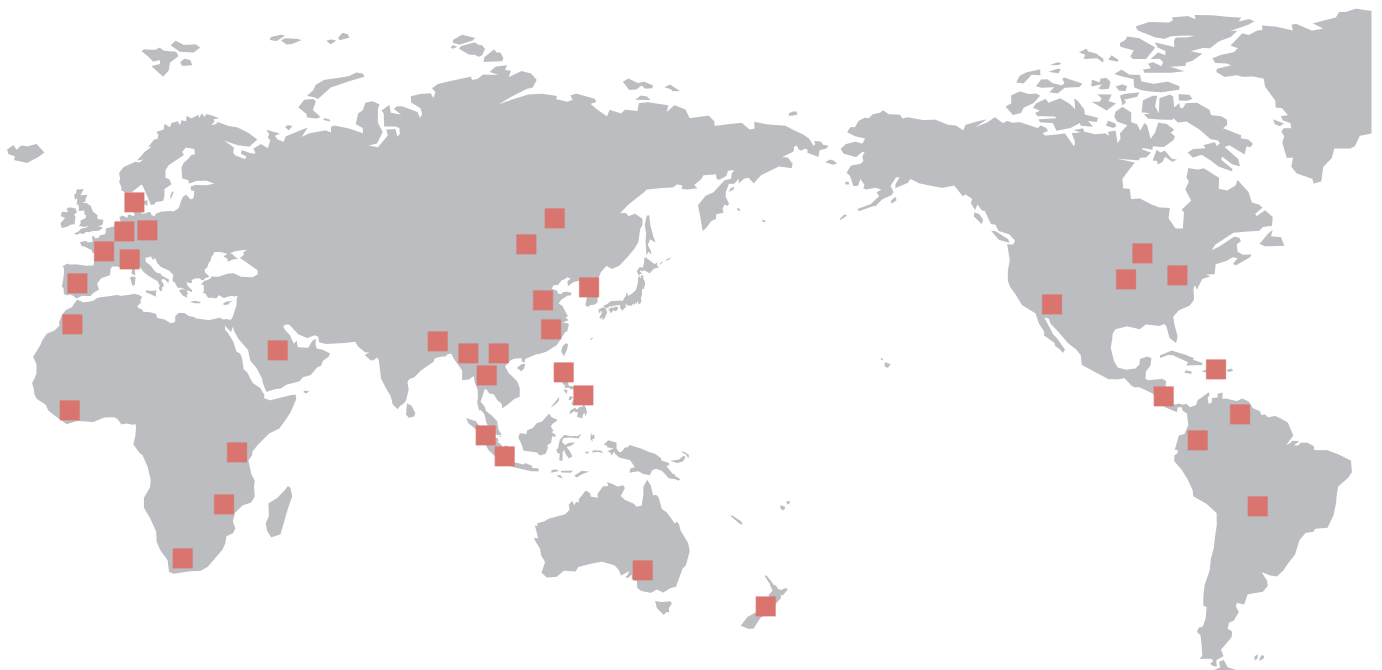
	拠点名	主な機能	所在地
乗用車	ATC	生産・販売	フィリピン
乗用車及び トラック・バス	MSC	生産・販売	タイ
	MMPC	生産・販売	フィリピン

欧州

	拠点名	主な機能	所在地
乗用車	MME	事業統括	オランダ
	MRDE	研究開発	ドイツ
	NedCar	生産	オランダ
	MMSE	販売	オランダ
トラック・バス	MTE	生産・販売	ポルトガル

その他の地域

	拠点名	主な機能	所在地
乗用車	MMAL	生産・販売	オーストラリア
トラック・バス	MTA	販売	オーストラリア



■ 主な海外拠点



エクリプス スパイダー（北米生産車）



スペーススター（欧州生産車）



キャンター（欧州生産車）

## グループ企業の状況

三菱自動車グループは、三菱自動車工業(株)、子会社124社、関連会社25社及びその他の関係会社2社(2003年3月31日現在)で構成されています。三菱自動車グループは乗用車及びその部品の開発、生産、販売を行っており、開発は三菱自動車を中心となって行なっています。

国内において、普通・小型乗用車、軽自動車については三菱自動車が生産しているほか、一部レクリエーション・ビークル(パジェロ等)はパジェロ製造(株)が生産しており、東京三菱自動車販売(株)等の乗用車販売会社が販売を行なっています。

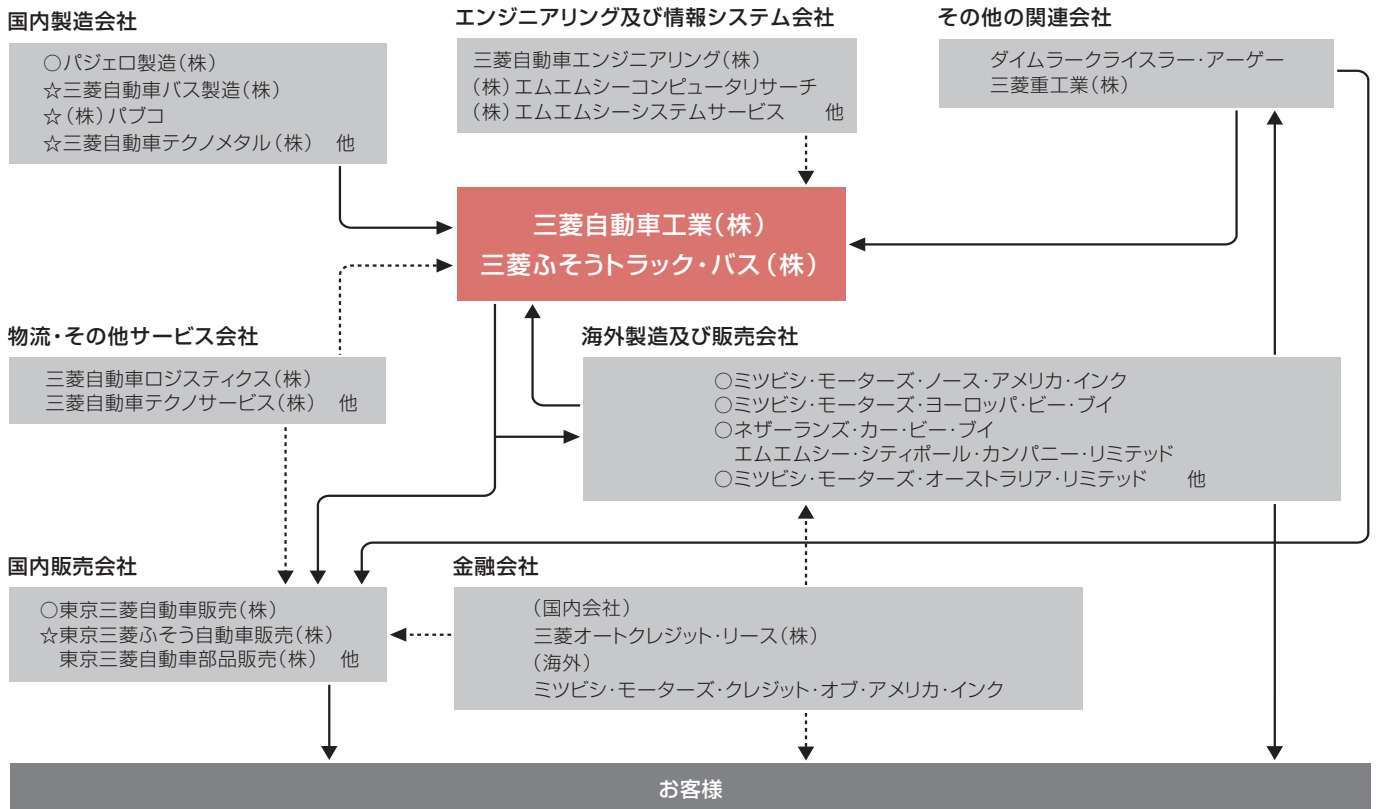
このほか、三菱自動車エンジニアリング(株)が製品開発の一部を、三菱自動車ロジスティクス(株)が国内の製品輸送を、三菱自動車テクノサービス(株)が新車

点検や整備の一部を行なっています。国内の補用部品については三菱自動車が生産し、上記の販売会社及び東京三菱自動車部品販売(株)等の部品販売会社が販売を行なっています。

海外においては、北米では三菱自動車・ノース・アメリカ・インク(米国)が生産・販売を行い、欧州ではネザール・カー・ビー・ブイ(オランダ)が生産、三菱自動車・ヨーロッパ・ビー・ブイ(オランダ)が販売を行なっています。その他の地域では、三菱自動車・オーストラリア・リミテッド(オーストラリア)及びエムエムシー・シティポール・カンパニー・リミテッド(タイ)等が、現地で生産の上、販売しています。

また金融事業としては、三菱オートクレジット・リース(株)及び三菱自動車・クレジット・オブ・アメリカ・インク(米国)が自動車のリース事業、販売金融等の事業を行なっています。

なお、トラック・バス事業については、2003年1月6日に会社分割により完全子会社化して、三菱ふそうトラック・バス(株)を設立しました。2003年3月14日に三菱ふそうの発行株式総数の58%を三菱自動車売却したことにより、三菱ふそうは現在、三菱自動車の持分法適用会社となっています。三菱ふそうはグループ会社と協力して、主にトラック・バスの開発・生産・販売を行なっています。



○:乗用車  
☆:トラック・バス  
マークなし:共通

製品・半製品・部品の流れ →  
サービス・その他 .....→